



2026～27 年度
国際ロータリー会長
オラインカ・ハキーム・ババロラ

Weekly Report Niigata

持続可能な
インパクトを
生み出そう

Rotary



2026～27 年度
新潟ロータリークラブ会長

坂井 賢一

新潟 RC 9 月第 4 例会 (2026.9.29) No.3619

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

訃 報

元会員・加島長作さん（株加島屋 前代表取締役
新潟 RC 1979 年 10 月 23 日ご入会、2016 年 6 月 30 日
退会）が 9 月 2 日にご逝去されました。心からご冥福を
お祈り申し上げ、黙祷をしたいと思います。

～加島長作元会員を偲び黙祷～

(2) 会長の時間（坂井 賢一会長）

錦鯉について『持続可能なインパクトを生み出そう』

皆様、こんにちは。突然ですが「シルバーウィーク」という言葉が、もともと映画会社によって作られた言葉だということをご存知でしょうか。

春の連休は「ゴールデンウィーク」と呼ばれますが、これは映画館に多くのお客さんに来てもらうため、映画会社・大映が名付けたとされています。

そこで大映は、秋の文化の日のころにも映画を見に来てもらおうと、春の「ゴールデン」に対して「シルバーウィーク」と名付けました。当時は広まりませんでした。しかし、2009 年に敬老の日と秋分の日が続き、9 月に 5 連休ができたとき、この言葉が再び使われ、今では 9 月の大型連休を指す言葉になりました。

つまり、シルバーウィークは「敬老の日のシルバー」から付いた名前ではなく、ゴールデンウィークに対する、映画業界の呼び名だったということです。

このように、普段何気なく使っている言葉にも、その背景には、誰かが考えたきっかけや、時代の変化、そしてそこに込められた思いがあります。

今日は、そんな「名前」や「価値」というところから、もう一つ、新潟にまつわる話をさせていただきたいと思っています。

それは、「錦鯉」です。

新潟には、全国に、そして世界に知られているものがたくさんあります。

米、日本酒、燕三条のものづくり、そして、今回取り上げたいのが、世界を魅了する「泳ぐ宝石」、錦鯉です。

本日は本年度のスローガン『持続可能なインパクトを生み出そう』に寄せて、我ら新潟が世界に誇る「泳ぐ宝石」、すなわち「錦鯉（にしきごい）」をテーマにお話しさせていただきます。

新潟県内でビジネスを営む皆様であれば、長岡市の山古志地域や小千谷市周辺が、錦鯉の発祥の地であることはよくご存じかと思います。

ももとは江戸時代、雪深い山間部において、冬場の貴重なタンパク源として飼われていた黒い真鯉の突然変異から生まれたとされています。そのわずかな色の変化を見逃さず、先人たちが雪の降る長い冬の間、丹精込めて交配を繰り返し、美しい芸術品へと昇華させました。

【世界的ブランドへの進化と、中越地震の試練】

さて、現在この錦鯉の市場がどうなっているかをご存じでしょうか。驚くべきことに、新潟で生産される錦鯉の大部分が、今や海外へ輸出されています。ヨーロッパ、アジア、アメリカなど世界中で富裕層を中心に愛好家が増え続け、品評会で優勝するような鯉ともなれば、一匹数千万円、時には億円単位という、とてつもない価格で取引される「グローバルなブランド」へと成長を遂げているのです。

しかし、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。

皆様の記憶にも深く刻まれている、2004 年の新潟県中越地震です。山古志地域をはじめとする生産地は壊滅的な被害を受け、土砂崩れや水枯れにより、先祖代々受け継いできた数多くの貴重な錦鯉が犠牲となりました。誰もが「新潟の錦鯉の歴史はこれで終わった」と絶望しました。しかし、生産者の皆様は決して諦めませんでした。自らの生活もままならない中、ヘリコプターで親鯉を救出し、遠く離れた仮設の池で懸命に命を繋ぎ、見事に産業を復活させたのです。

そして、ただ元に戻しただけではありません。震災の苦難を乗り越え、命を繋いだというその「ストーリー」そのものが、錦鯉の背景にある価値をさらに高め、世界中のファンとの間に、より強固な絆を生み出すことになったのです。

【雪深い山間部から生まれた奇跡】

私は、この錦鯉の軌跡こそが、本年度のスローガンである『持続可能なインパクト』のお手本であると考えています。ここから我々企業経営者が学ぶべき点は、大きく2つあると思います。

第一に、「圧倒的な付加価値の創造」です。

彼らは「価格競争」や「大量生産」の波に飲み込まれることなく、新潟の風土と伝統技術でしか生み出せない「唯一無二の芸術的価値」を磨き上げました。その結果、自分たちで価格の決定権を持ち、世界中に市場を創り出すことに成功したのです。

第二に、「ローカルからグローバルへの持続可能性」です。

過疎化や高齢化、そして大災害という地方特有の弱点を言い訳にせず、世界と直接繋がり、外貨を獲得しています。その利益が地域に還元されることで、若き後継者が育ち、山間部の小さな集落に雇用と大きな「誇り」を持続的にもたらしめています。

【新潟発の価値を未来へ】

環境の変化や、さまざまな課題がある中でも、一つひとつに誠実に向き合い、次の世代へつなげる仕事を続けていかなければならないと思います。そして、それを次の世代へとつなげていくための力強いビジネスモデルを構築していく。それこそが、地域社会に残すべき『持続可能なインパクト』だと思います。新潟の雪解け水で育ち、世界の大舞台を華麗に泳ぐ錦鯉のように。我々も力強く、そして美しく、新潟から世界へ、未来へと価値を発信してまいりましょう。以上で会長の時間とさせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。

(3) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(桜井 広利副委員長)

五十嵐弘幸君 桜井 広利君

米山奨学会寄付発表(石川 治彦副委員長)

織戸 潔君 高橋 英敏君

島田 好久君 本多 晃君

小飯田澄雄君 石川 治彦君

青少年育成基金寄付発表(大桃 典和副委員長)

渡邊 利博君 坂井 賢一君

小飯田澄雄君 大桃 典和君

(4) ニコニコボックス紹介(杉村 章委員)

・小飯田澄雄君 ケガも少しは良くなりほっとしています。ご心配かけてすみませんでした。

・梶坂 昌春君 結婚記念日のお花をありがとうございました。毎年、お花が届く度に「今年も無事に過ごせたんだなあ」と夫婦で確認しております。

・若槻 良宏君 先日の日曜日、エポンのゴルフクラブを愛好する有志のゴルフコンペが紫雲ゴルフクラブで開催され、高橋秀松さん、栗原さん、五十嵐さん、正力さん、櫻井俊晴さんと参加してまいりました。飯豊のアウト6番で、エポンの9番アイアンで打った2打目がカップインし、生涯初めてのイーグルをとりましたので、ニコニコします。この日は、他にバーディーを一つとりましたが、大叩きのビッグイニングが続発し、100切りはできませんでした・・・コンペでは、櫻井さんが80台前半のスコアで優勝されましたので、あわせてニコニコします。エポンの愛好者が増えるといいなあと思っておりますので、興味のある方はお声がけください。

(5) 幹事報告(本多 晃幹事)

・RI 第2560地区ガバナーノミニデジグネート(2029-30年度ガバナー)決定のお知らせ
新潟東RC 安藤 幸夫氏

・佐渡RCの新事務所、例会場のお知らせ
新事務所:〒952-0005 新潟県佐渡市梅津
1764-2-9 中川方
【電話番号】: 090-8412-7355
【メールアドレス】: sado.rotary@gmail.com
新例会場: 正覺寺内
【住所】: 新潟県佐渡市両津夷新17

(6) 米山奨学生 王煜伝さんのスピーチ
「新潟で学び、出会い成長する
一米山奨学生としての私」

(7) 9月29日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
80	79	46	58.23%

Zoom参加 4名

10月6日は第一例会につき卓話はございません。

新潟ロータリークラブホームページアドレス
<http://www.niigatarc.jp/>